

なまえ まちの名前の ひみつをさぐるう！



すがわらのみちぎね ゆらい すがわら ①菅原道真に由来する「菅原」

へいあんじだい
平安時代なかばの901年（延喜元年）ごろ、
がくもん かみさま すがわらのみちぎね だざいふ い と
学問の神様である菅原道真が大宰府に行く途
ちゅう てんらいじ てら と
中、天籟寺というお寺に泊まったといういい
つた
伝えがあります。
すがわらのみちぎね と まち すがわらじんじゃ まち
菅原道真が泊まった町、菅原神社のある町
ということで「菅原」という町の名前になっ
たとわれています。



すがわらじんじゃ
菅原神社

みちぎね ②道真がまつられた ゆらい てんじん ことに由来する「天神」

すがわらてんじんいま すがわらじんじゃ
菅原天神（今の菅原神社）におまいりす
るための参道だったことから、この名前
さんどう なまえ
がつけられたそうです。



すがわらてんじん ③菅原天神のおみこしに ゆらい よみや 由来する「夜宮」

すがわらてんじん みや いちや
菅原天神のおみこしをここのお宮に一夜、
お 置くことから「夜の宮」とよばれていまし
よる みや
た。このことから「夜宮」とつけられたそう
よみや
です。

いち ゆらい いちえだ ④市がさかえたことに由来する「一枝」

むかし おお むら ちい むら えだむら いま いちえだ なかばるむら
昔、大きな村からはなれた小さな村を枝村とよんでいました。今の一枝あたりは中原村
えだむら すがわらのみちぎね だざいふ い とお みち ばしよ いちば たいへん
の枝村で、菅原道真が大宰府に行くまでの通り道でした。その場所で、市場ができて大変
さかえたことから、「市」が「一」となり枝村の「枝」と合わせて、「一枝」とよばれる
いち いち えだむら えだ あ いちえだ
ようになったそうです。

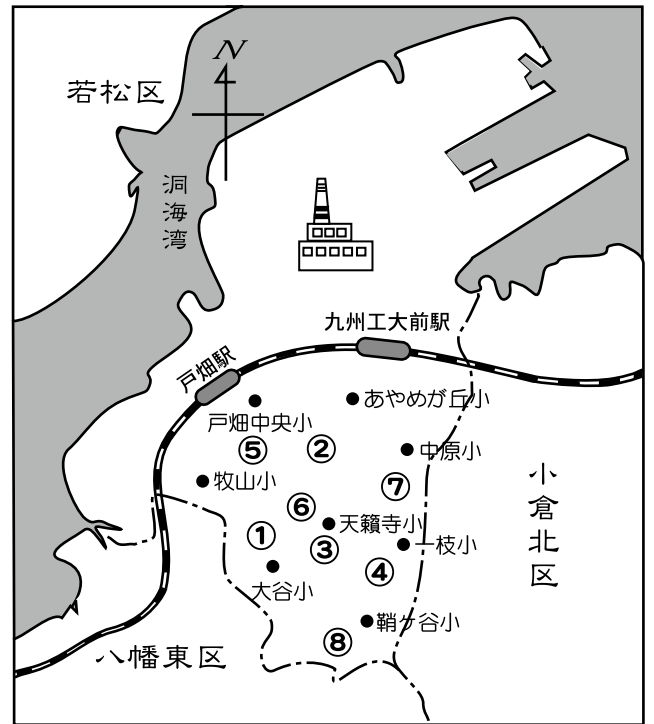
みろくさま
⑤ 弥勒様がまつられたことに由来する「美祿」

とばたちゅうおうしょうがっこう ちか むかし みろくやま
 戸畑中央小学校の近くには昔、弥勒山とい
 おか みろくさま ほとけさま ひと
 う丘があり、弥勒様（仏様の一つ）をまつ
 ていました。ここから「美祿」とつけられた
 といわれています。今は公園として、その名
 がのこされています。

いま さんろく じ
 また、今の「三六」はミロクのあて字だとい
 われています。



みろくこうえん
 美祿公園



みちざね と てら なまえ
⑥ 道真が泊まったお寺の名前に由来する「天籟寺」

てら なまえ
 お寺の名前からつけられたといわれていま
 てんらいじ ばしよ いま すがわらじんじや
 す。天籟寺があった場所に、今は菅原神社が
 た
 建てられています。



ねんど あかつち
⑦ 粘土や赤土をとっていたことに由来する「土取町」

とうじき
 かわらや陶磁器（うつわ）をつくるための
 ねんど あかつち ばしよ
 粘土や赤土をとっていた場所があったことか
 ら、「土取町」とつけられたといわれています。
 つちとりまち
 昔は戸畑のまちでも、陶芸をするためのか
 むかし とばた とうげい
 まがいろいろなところにあったそうです。



とち かたち ゆらい さやがたに
⑧ 土地の形に由来する「鞘ヶ谷」

むかし やま なんぼく
 昔、このあたりは山にかこまれた、南北に
 ほそなが たい とち かたち かな けん
 細長い平らな土地でした。その形が刀や剣を
 おさめる鞘に似ていたことから「鞘ヶ谷」
 とつけられたそうです。